



村を守る石積みの堤防

③ 座光寺石川除 飯田市

2段に積まれた石積みは、きれいな曲線を描いていた。1868年に改修されたというが、自然の大石が江戸時代の普請を感じさせた。

飯田藩領にあった座光寺村に築かれたのは1828年から1833年にかけて。長さ128間(約230m)、高さ2間(約3・6

伊那谷遺産 第2部

だ。普請費は360両余だったという。先に上流に整備された伴野堤防で跳ね返った水が、対岸下流の同村を襲うため、頑丈な堤防で水田を守ろうと、庄屋や組頭らが経費を添えて飯田藩代官所に願ひ出た。「石川除と言つていい、そらあ大きな石を積んで作つてある。当時の飯田の殿



様がお触れを出したんだろうが、毎日もっこを担いだとしても、どのぐらいかかったか見当がつかない」と話すのは近くで農作業をする男性(71)。

石川除の上には枝垂れ桜の老木が2本。30年ほど前の台風被害で上半分が折れてしまったが、今でも美しく花を咲かせ、人々を和ませている。(文・倉田高志、絵・片桐美登)



QRコードから天上事務所HPへ